

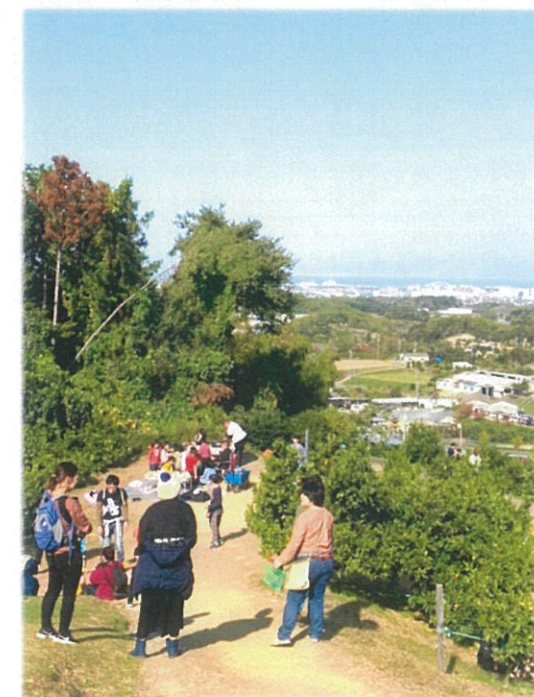


2020年 良い年になりますように ～本年もよろしくおねがいます～

仲嶺 真弓

今年はどうな年になるのでしょうか。子どもたちが育つ保育の現場も、2019年から持ち越した問題が幾つもあり、何を大事にして日々過ごすのか、大人の私たち一人一人が問われているのだと思います。難しいことを考えるときりが無いのですが、何気なく子どもたちと過ごす時間の中で、「そうそうこんなことを大事にしたいんだ」と思う場面に出くわします。夕暮れ時のお迎えの時間帯に聞こえてくる子どもたちの何気ない会話、「バイバーイ。」「バイバイ、また明日も遊ぼうなあ。」「うん！」とりたてて特別な会話ではないけれど、ほっこりと心に沁みてきます。“今日も君といっばい遊んで楽しかったから、明日も！！”聞こえてくる声のトーンから、そんな子どもたちの心の躍動を感じ、明日へ向かう子どもたちの日常を大切にしたいという思いがこみ上げてきます。夕方、事務室の戸をバンバンと叩く音がします。振り向くと、引き戸の透明クリアボードに顔面を押し付け、変顔をした子が、両手をあげて「仲ちゃんバイバイ」と手を振っている。そんな子もいれば、戸を10センチほど開けて「仲ちゃん…何してるん？」と静かに問いかけてくる子もいる。十人十色。子どもの表現は一人ひとり違うけれど、他者に興味を持ち、関わろうとする、屈託のない姿に、人が人として育っていく根っこの力を育む環境がここにもあるのだということを感じずにはられません。この当たり前にある日常を大切にしたい。ただそれだけを願いつつ2020年も奮闘していきたいと思います。

2019年の霜月と師走は2020年に向けて心が軽くなるのがたくさんある一年の締めくくりとなりました。霜月…11/17(日)のカンガルーの会(つばさ保護者会)主催みかん狩りでは、子どもたちのスタンプラリークイズに、「園長のフルネームは？」という1問を入れてもらえ、思わぬところで子ども達から注目をあびる瞬間がありました。子どもたちが園長のフルネームを知っていることはない現実ですが、みかんをもちで食べながら子どもたちと会話できるチャンスをひとつだけいただいたことは、と



雲ひとつない青空の下のみかん狩り

とも嬉しい瞬間でした。お気遣いありがとうございました。霜月・師走…毎月行う職員会議は、2園(姉妹園アトムとつばさ)合同での各部署(給食・看護師・事務・保育)に分かれて会議をしました。保育園を支えているのは保育士だけではありません。それぞれの部署がそれぞれの役割について真摯に向き合い、考え話し合う職員の姿勢を、手前味噌ではありますが、誇りに思いました。師走…帰りに一人呑み。一杯だけ生ビールを…と立ち寄ったお店で、クラス保護者母親忘年会が開催されていたのです。そして、「良かったら合流しませんか」と声をかけていただきました。未だかつてない出来事に、驚いたけれど、大笑いしながら自分がここで働きたい原点を思い出させてもらった瞬間でした。サプライズな呑み会をありがとうございました。どちらかという予想外のことは苦手で戸惑うことの方が多い私ですが、予想外のことが楽しく心温まる出来事に変化していく瞬間がとても心地よく、2020年は、サプライズなこともしり込みせず楽しみに変換していこう、とそんなことを考えながら歩く帰り道でした。